

大阪・淀屋橋と大江橋

最近、大阪市役所で仕事をする事が多く、淀屋橋と中之島界隈をよく歩く。川を見ていると心がなごむ。写真は土佐堀川に架かる淀屋橋と堂島川に架かる大江橋である。どちらも鉄筋造りの橋で風格がある。淀屋橋の欄干を見ると、「昭和9年12月改築」と記されていた。関一市長の時代だ。市役所の前に、日本銀行大阪支店がある。堂々とした造りであり、威厳を感じさせる。その北側を流れるのが堂島川であり、江戸時代には蔵屋敷や米問屋などが並んでいたが、川沿いを高速道路が走っている。大江橋から見る景観も、なんだか味気ない。



最後の写真は、大江橋横の横断歩道から御堂筋南方面を撮った。御堂筋も関市長時代に造られ、大阪を代表する道路である。ビルの高さも規制され美しい景観であったが、最近では規制緩和により不揃いになってきた。こんな写真を撮っていたとき、芝村篤樹「近代の大阪と関一の時代」(『大阪の歴史』50、1997)を読んだので、抜粋して紹介したい。

大阪で都市景観として最も美しいのは、中之島界隈ですね。あの辺りは、江戸時代から堂島川と土佐堀川の水辺を背景に都市の中核であったわけですが、関市政の時代に水辺の風景を継承しつつ、すっかり近代都市の風格のある景観に再編成されました。ところが今、大江橋に立って眺めると、堂島川に沿って走る阪神高速道路の橋桁が、その風格のある美しい景観を損なっています。土地買収の費用と手間を省くために、高速道路を川に沿って走らせたということですが、都市の顔ともいえるべき場所にもこのような手法を採用したところに、高度経済成長期の都市政策の精神が象徴されています。

関と言えば、すぐに思い起こされるのが御堂筋、地下鉄の建設です。四条のイチョウ並木、大江橋・淀屋橋の豪華な意匠など、御堂筋は単なる道路ではなく、都心の業務地域の高度化をはかり、大阪の顔を造ろうとしたものでした。地下鉄も、関時代に建設された難波駅までは、広いアーチ型の駅舎など、デザインにも凝った美しいものです。「都市美」ということを強く意識していた時代の産物で、モダン大阪の粋と言えます。いずれも都市計画事業として建設されたものです。しかし、都市計画の真骨頂は、街路の建設によって都心部の再開発を図ることよりも、都市住民の生活環境の改善を実現することだと、関自身が語っています。

(2020年5月14日)